

牧師所感： 恩師 加藤常昭牧師を哀悼する

キリスト教界の新聞“クリスチャン新聞”2024年5月19日の報道に依れば、説教塾主宰 加藤常昭牧師が、去る4月26日、誤えん性肺炎のため召天したことを知る。

先生は享年95歳で生を全うされた。深く哀悼する。

さて加藤先生は、筆者が1967年東京神学大学学部3年生から、大学院の博士課程を修了するまで、実践神学の教授として教えて戴いた。

ところで筆者が東神大を卒業後、在日大韓基督教団牧師として在任中、教団の牧師修養会に講師として何度も招聘され講義をなさった時に受講した。

また筆者が所属教団を退任（70才）して、千葉県八街グレイス教会を開拓して牧会中、“日本伝道の幻を語る会”に参席していた時のことであった。

講師として招かれて来られた先生が、加藤常昭牧師であった。時は2008年8月25日。場所は千葉県市川市山崎製パン会館であった。

第一日目の夜の集会で、先生は出席の聴衆の名簿をごらんになり、筆者の名前を発見されてとても喜んで下さったことを思い起こす。

二日目の夜の講義の時、筆者が在日教団を70歳で引退して更に開拓し、教会を建立した経緯をつぶさに聞かれて、聴衆の前で証しをさせて下さった。この出来事は、ご自分が教えた生徒が老牧師になっても、召される迄牧会を続けるという意気込みに、共鳴なさったのではと思う。

さて、加藤先生は、数多くの著作を残された。昔コンピュータがなかった時、教案を一一手書きで印刷して配られた。ところで筆者が音楽大学出身ということで、東神大チャペルで賛美歌や、数多くの聖譚曲（オラトリオ）を歌った。因みに加藤先生はドイツ歌曲や聖譚曲をよく歌われた。

先生は韓国人の牧師である筆者を心に留めて下さった。

最後に、先生の遺言であろうか。『説教者が力あることばを持つことが大事』だと新聞で紹介されている。心に留めたい。先生、ありがとうございました！！